

「同級生」の存在

栗島浦村立栗島浦中学校 3年 本 保 たから

「おはよう！」

そう言えば、「おはよう！」とあいさつが返ってくる。それは、みなさんにとっては当たり前のことかもしれません。しかし、私にとっては最近まで、当たり前のことではありませんでした。

私が住んでいる栗島では、一昨年から「しおかぜ留学」という制度が始まりました。その制度のおかげで、今、学校の子どもの数が徐々に増えています。

しかし、その制度が始まる前は、学校の子どもの数はとても少なくなっていました。だから、私には同級生がいませんでした。ずっと一人でした。教室は毎日静かで、とても寂しかったです。同級生がいる先輩は毎日笑い合いながら過ごしていて、うらやましく思っていました。

「同級生がいたら自分は何か変わるのかな。」「同級生がいるってどんな感じなのかな。」先輩方を見ていると、口には出せなくても、心の中ではずっと同級生がほしいと私は思っていました。

そんな時でした。2013年。栗島では島外から子どもを受け入れる「しおかぜ留学」が始まりました。その年から私には、転入や留学によって初めて同級生ができました。

その日から私の学校生活は大きく変わりました。例えば、勉強で置いていかれそうになって焦ったり、不安に思ったりする気持ちが芽生えました。こんな気持ちは初めてで、正直、辛くて苦しいと思う日もありました。

その一方で、授業や委員会活動では自分と異なる考えをもつ人の意見を聞く機会が増えました。これは自分に大きな刺激を与えてくれました。おかげで、いろいろな視点で物事を考えることができるようになりました。今まで気付かなかったことに初めて気付くことができたり、自分には思いつかないような考えを聞いて感心したりすることも多かったです。

今、私のクラスは生徒数が九人です。毎日が楽しいです。私が今学校に行っている理由には、「友達とおしゃべりするため」というものが一つ追加されました。一人だったときは学校に行っても静かでつまらないと思っていました。しかし、人数が増え、学校全体が明るくなった今は、学校が楽しい所だと感じられるようになりました。同級生ができ、学校の楽しさを感じることができ、今、私は幸せです。

今の私は、一人でいたときの私とは変わってきています。一人だったときは、心配事も少なく、いつも自分のペースで過ごしていました。しかし今は、同級生のことを心配し、悩みを聞いてあげたいという思いやりの気持ちをもてるようになりました。

また、世間の出来事に対する考え方も変わりました。例えば、自殺に対する考え方です。以前の私は、いじめなどによる自殺のニュースを見ても、「ひどい」「かわいそう」と思うだけでした。しかし今は、そのようなニュースを見ると、「同級生がいることのありがたさに気付くことができない人が多いのは残念だ。」「いじめで人の命を消してしまうことは友達を一人失っていることなのに……。」と考えるようになったのです。

このように、私は大きく変わりました。物事に対する考え方も、友達のことを想う気持ちも一。そんな風に私が変わることができたのは、一緒に過ごしてきた同級生のおかげです。

これから大人になるにつれて、私には多くの出会いがあると思います。私は、その一つ一つの出会いで多くの友達を作り、そして、その友達を大切にできるような人間になりたいです。これまでたくさんの刺激を与えてくれた同級生のみんなに感謝し、友達の存在の大きさや同級生がいることの有難さを忘れることなく、卒業までの日々を、そしてこれからを、大切に、大切に過ごしていきたいです。